

2 教職員に求められる人権感覚

(1) 「人権・同和教育の視点と具体的な取組例一覧表」

「自分の大切さとともに他の人の大切を認めること」ができる人権感覚の育成を目指す人権教育と、「一人一人の児童生徒の人格の尊重」の要素を含む生徒指導は、密接な関係があり、教職員はそのことを意識すること（「隠れたカリキュラム」への理解）が重要ある。

そこで、下のように人権・同和教育の5つの視点（生徒指導の実践上の視点4つと重なる）と具体的な取組例を示した。

<人権・同和教育の視点>

- ① 自尊感情を育てる視点
- ② 共感的人間関係を育てる視点
- ③ 自己選択・自己決定の場を設定する視点
- ④ 一人一人の生活背景や諸事情を尊重した指導の視点
- ⑤ 集団の形成者としての在り方を考えさせる仲間づくりの視点

これらの視点を日常的に持ち、絶えず自身の取組を振り返ることにより、人権尊重の環境づくり、雰囲気づくりが促進され、人権文化が醸成される。さらに、教職員の生徒指導および学習指導の向上につながり、児童生徒の資質能力の育成に資すると考える。

人権・同和教育の視点と具体的な取組例 一覧表

人権・同和教育の視点	ねらい	具体的な取組例	土台となる視点
自尊感情を育てる視点	○「授業に参加している」という実感を持たせる。	①学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答パターンを工夫する。 ②児童生徒の既習事項、生活体験、興味関心等を把握し、様々な視点から解決できるように課題設定も工夫する。 ③児童生徒の学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題(教材)を複数準備したり、ヒントカードを与えたりする。 ④結果にこだわらず、思考過程や学習過程を認める。 ⑤意図的な指名等、一人一人が活躍する場や課題を工夫する。	一人一人の生活背景や諸事情を尊重した指導の視点 集団の形成者としての在り方を考えさせる仲間づくりの視点
	○「自分が必要とされている」という実感を持たせる。	⑥自由な発想や方法が認められたり、自己選択できる場を工夫する。 ⑦互いの発言を最後まで聞く習慣や誤答を大切にすることを身に付けさせる。 ⑧協力してできる場を工夫し、互いの考えや方法のよさに気づかせる。	
	○教師自身が一人一人を大切にしている姿勢を示す。	⑨一人一人の名前を呼び、目を見て話す。話をよく聞く。 ⑩発言しない児童生徒に配慮するとともに、適切な支援を行う。 ⑪承認・賞賛・励ましの言葉をかけ、個に応じた改善課題や改善方法を示す。	
共感的人間関係を育てる視点	○「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気を作る。	⑫「誰にでも失敗はある」「誰もがよさや弱さを持っている」ことを認識し、互いを尊重し合う人間関係づくりを行う。 ⑬一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりを行う。 ⑭教師の意図と異なる考えを抑圧したり、切り捨てたりしない。	
	○「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気を作る。	⑮他者の発言や作品の良さに気づき、学ぼうとする態度を育てる。 ⑯自分の考えと異なる意見や感情を拒絶せず、それを理解する技能を育てる。 ⑰他者の気持ちや立場を考えて自分の言動を選択・構成する態度を育てる。 ⑱互いの役割や責任を認め合う態度を育てる。	
自己選択・自己決定の場を設定する視点	○学習課題や計画を選択する機会を提供する。	⑲発達段階に応じて、自分に合った課題を選択する機会を設定する。 ⑳発達段階に応じて、学習の見通しをもって計画を立てるための支援を行う。	
	○学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。	㉑児童生徒の実態を踏まえて多様な教材・教具を準備し、選択の幅を持たせる。 ㉒自分の習熟の度合いや興味・関心に基づいて、教材・教具を選択できる場を設定する。	
	○学習方法を選択する機会を提供する。	㉓児童生徒の実態や学習内容に応じた学習方法を提示し、選択の幅を持たせる。 ㉔課題解決のための情報や資料を準備し、その活用方法について適宜助言する。 ㉕ワークシートやノートの整理の方法、学習内容のファイルの仕方を助言する。	
	○表現方法を選択する機会を提供する。	㉖児童生徒の実態を踏まえて多様な表現方法を提示し、選択の幅を持たせる。 ㉗考えをまとめるための多様な学習ノートを準備する。 ㉘相手や内容に応じた表現ができるよう、多様な表現スキルを提示する。	
	○学習形態や場を選択する機会を提供する。	㉙児童生徒の実態や学習内容に応じた学習形態や活動の場を多様に提示し、選択の幅を持たせる。 ㉚自分の課題や方法に基づいて活動内容や場所を選択する機会を設定する。	
	○振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。	㉛児童生徒の実態や学習内容に応じた学習成果のまとめ方を多様に提示し、選択の幅を持たせる。 ㉜自他の学習課題や解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返って交流する時間を設定し、他者の成果に学ぶとともに、今後の学習課題や方法について選択・決定できる場を工夫する。	